



1/5000

ボーリング調査 位置図

ボーリング柱状図

調査名 平成6年度 流域関連公共下水道地質調査
業務委託 (補流一地質)

ボーリングNo.

事業・工事名 福島北土地区画整理事業

シートNo.

ボーリング名	B-N.O.14			調査位置	北 緯						
発注機関	福島市役所下水道建設課				調査期間	平成 7年 1月31日～ 7年 3月20日			東 経		
調査業者名					主任技師	現場代理人	コ ア 鑑定者	ボーリング責任者			
孔口標高	82.44m	角 度	180° 上 90° 下	方 向			地盤公配	使用機種	東邦地下工機製 D1-B	ハンマー 落下用具	コンプリー
総掘進長	6.50m			方 向	270° 西 90° 東 180° 南	地盤公配	エンジン	ヤンマーNFD12	ポンプ	東邦製BG-3	

標尺 (m)	層 高 (m)	厚 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	標準貫入試験						原位置試験 深 度 (m)	試験名 および結果	試料採取 深 度 (m)	採取方法	室内試験 含 水 率 (%)	掘 進 月 日	
									孔内水位 (m)	測定月日	深 度 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数/貫入量 (cm)	N 値							
1	81.34	1.10		盛土	灰~ 灰褐色			造成盛土である。 φ=20~40mm程度の碎石 及び細砂より構成される。	37/6 0.70	1.15	8	7	7	22						3/16	
2								水分多い。 礫は、亜円礫を主体とし、平均 径φ=10~30mm、最大径 φ=60mm程度である。 層上部で礫分少ない。 充填物は、シルト混じり粗砂を 主体とする。 所々シルト分を多く混入する。		2.15	7	9	6	22							
3										2.45	20	20	10	5	50						
4										3.15	30	20	20	5	50						
5										4.15	30	20	20	5	50						
6										4.35	13	19	18	50							
										5.45	6	19	20	45							
	75.84	5.40		砂 礫	青灰 ~ 黄褐色	中位 の 密な				6.15	6	19	20	45							
									6.45												

凡例

柱状図および土質区分

第 1 分類

区分	分類名	図様
土	礫 (G)	
	礫質土 (GF)	
	砂 (S)	
質	砂質土 (SF)	
	シルト (M)	
	粘土 (C)	
粘	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (V)	
	高有機質土(腐植土) (PI)	

第 2 分類

区分	分類名	図様
砂	質 (S)	
	シルト質 (M)	
粘	質 (C)	
	有機質 (O)	
助	火山灰質 (V)	
	玉石混り (-B)	
記	砂利、礫混り (-G)	
	砂 混り (-S)	
号	シルト混り (-M)	
	粘土混り (-C)	
	有機質土混り (-O)	
	火山灰混り (-V)	
	貝殻混り (-Sk)	

第 3 分類

区分	分類名	図様
礫	硬 岩 (HR)	
	中硬岩 (MR)	
砂	状岩、風化岩 (WR)	
	石 (B)	
特	浮石 (礫石) (Pm)	
	シラ ス (Ss)	
珠	スコリア (Sc)	
	火山灰 (VA)	
材	ロ ム (Lm)	
	粘 土 (C)	
質	質 ホク (Kb)	
	質 (WC)	
表	土 (Sa)	
	土 (FI)	
層	土 (W)	
	層 質 物 (W)	

試料採取方法

- ① シンウォールサンプラーによる
- ② デニソンサンプラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンプラーによる
- ⑤ () による

備考

南矢野目2

ボーリング柱状図

調査名 平成6年度 流域関連公共下水道地質調査
業務委託 (補流一地質③)

事業・工事名 福島北土地地区画整理事業

ボーリングNo.

ボーリング名	B-NO.13		調査位置	北緯	
発注機関	下水道建設課		調査期間	平成7年1月31日~7年3月20日 東経	
調査業者名	主任技師		現代場代理人	コアラ鑑定者	ボーリング責任者
孔口標高	82.23m	角 180°上 90°下 90°	方 北 東 西 南	地盤公配	使用機種
総掘進長	6.50m	度	向	試錐機	エンジン
			東邦地下工機製 D1-B		ハンマー落下用具
			エンジン		ポンプ
			ヤンマーNF D12		東邦製 B G-3

シートNo.

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色相	対密	対稠	記	標準貫入試験			原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
										深	10cmこの打撃回数	打撃回数/貫入量					深
(m)	(m)	(m)	(m)						事	深 (m)	値	(m)	(m)	(m)	(m)	(日)	
1	81.63	1.20	1.20		盛土	灰色~灰褐色			運成盛土である。 φ=20~40mm程度の碎石及び細砂から構成される。	1.15	16	14	14	44	30		
2					砂	青灰~黄褐色	密	な	水分多く、孔隙率やすい。礫は、亜円礫を主体とし、平均径φ=10~30mm、最大径φ=80mm程度である。局所部にφ=70mm程度の玉石を混入する。層上部で礫少ない。充填物はシルト混じり粗砂。層下部でシルト分を多く混入する。	2.15	15	10	10	35	30		
3									第四紀完新世~更新世	3.15	17	20	13	50	28		
4										4.15	12	12	14	38	30		
5										4.45	10	12	10	32	30		
6	75.73	5.30	6.50							5.45	17	17	14	48	30		
										6.45							

<凡例>
柱状図および土質区分

第1分類

区分	分類名	図記号
土	礫 (G)	●●●●
	強質土 (GF)	●●●●
	砂 (S)	●●●●
質	砂質土 (SF)	●●●●
材	シルト (M)	-----
	粘性土 (C)	-----
料	有機質土 (O)	
	火山灰質粘性土 (V)	
	高有機質土 (腐植土) (P)	

第2分類

区分	分類名	図記号
	砂質 (S)	●●●●
	シルト質 (M)	-----
	粘土質 (C)	-----
補	有機質 (O)	
助	火山灰質 (V)	
	玉石混り (-B)	●●●●
	砂利、礫混り (-G)	●●●●
記	砂混り (-S)	●●●●
	シルト混り (-M)	-----
号	粘土混り (-C)	-----
	有機質土混り (-O)	
	火山灰混り (-V)	
	貝殻混り (-Sb)	●●●●

第3分類

区分	分類名	図記号
岩	硬岩 (HR)	
質	中硬岩 (MR)	
材	軟岩、風化岩 (WR)	
料	玉石 (S)	●●●●
	浮石 (礫石) (Pm)	△△△△
特	シラス (Ss)	△△△△
殊	スコリア (Sc)	△△△△
土	火山灰 (VA)	
材	ローム (Lm)	
料	黒ボク (Kb)	
	マサ (WG)	
表	土 (Ss)	
根	土 (FI)	
座	堆積物 (W)	

試料採取方法

- ① シンウォールサンブラーによる
- ② デニソンサンブラーによる
- ③ 貫入試験器による
- ④ フォイルサンブラーによる
- ⑤ ()による

備考

付図 2-2 ボーリング柱状図

調査名 平成9年度 流域関連公共下水道地質調査業務委託(泉特補一地質1)

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

ボーリング名	N 0.2		調査位置											北緯					
発注機関	福島市下水道部下水道建設課				調査期間	平成9年5月20日～9年6月27日										東経			
調査業者名					主任技師											ボーリング責任者			
孔口標高	82.06m	角	180°上	90°	方	北0°	270°西	90°東	180°南	地盤勾配	鉛直	水平0°	使用機種	試錐機	東邦 D1-B型		ハンマー	自動落下	
総掘進長	7.45m	度	下0°										エンジン	ヤンマー NFD12-EK	ポンプ	東邦 BG-3B			

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験				原位置試験		試料採取	室内試験	掘進月日	
										深	10cm	ごとの	打撃回数	深	試験名				深
										孔内水位(m) / 測定月日									
1	81.66	0.40	0.40		表土	茶褐	密	中位	土性は砂混り粘土状を呈する。φ3mm程度の小礫が若干混入する。φ30mm以下の亜円礫が多く、最大ではφ60～70mm内外マトリックスは細～中粒砂を優勢とするが、GL-1.00m付近迄は粘性土分も多く混入する。下層部は含水量多い。	5/22 1.90	1.15	11	12	14	37	37			
2	79.46	2.20	2.60		砂礫	暗灰	中位				2.15	8	8	7	23	23			
3	78.41	1.05	3.65		粘土	暗灰	軟		全般に含水量多く、粘着性は弱い。全体に腐植物が若干混入する。GL-2.80m地点に木片混入。		2.45								
4	77.81	0.60	4.25		シルト	暗灰	中位		含水量多く、粘着性は弱い。シルト分を多く含有する。腐植物が若干混入する。		3.15	1	1	2	4	4			
5					シルト質砂	暗青	中位		粒子は微細粒砂を主体とする。シルト分を多く含有する。シルト質砂～微細砂の互層状となっている。GL-5.00m付近迄は雲母片及び腐植物が若干混入する。		3.48	1	1	2	4	4			
6	75.46	2.35	6.60		砂混り砂	暗灰	中位				4.15	3	5	5	13	13			
7	74.61	0.85	7.45		砂	暗灰	中位				4.45								
8											5.15	2	3	5	10	10	5.15	2-1	
											5.45	3	4	5	12	12	5.45		
											6.15								
											6.45								
											7.15	7	8	9	24	24			
											7.45								

付図 2-3 ボーリング柱状図

調査名 平成9年度 流域関連公共下水道地質調査業務委託(東特補一地質1)

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	N o . 3		調査位置					北緯							
発注機関	福島市下水道部下水道建設課				調査期間	平成 9年 5月20日～ 9年 6月27日				東経					
調査業者名					主任技師					現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者		
孔口標高	81.67m	角	180°上 90° 0°下	方	北 0° 270°西 180°南 東 90°	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試錐機 東邦 D1-B型		ハンマー落下用具		自動落下		
総掘進長	10.45m	度		向				エンジン	ヤンマー NFD12-EK		ポンプ		東邦 BG-3B		

標尺 (m)	層高 (m)	厚 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	相対調度	記号	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		掘進月日	
											深 (m)	10cm 打撃回数	この 10cm 打撃回数	貫入量 (cm)	深 (m)	試験名および結果	深 (m)	採取番号		採取方法
81.47	0.20	0.20			粘土	暗灰	密	中位	中位	粘土										
81.17	0.30	0.50			シルト	茶褐	密	中位	中位	シルト										
79.87	1.30	1.80			粘土混り砂礫	茶褐	密	中位	中位	粘土混り砂礫										
77.87	2.00	3.80			砂礫	暗灰	中位	中位	中位	砂礫										
76.17	1.70	5.50			砂	暗灰	中位	中位	中位	砂										
73.07	3.10	8.60			シルト	暗灰	密	中位	中位	シルト										
72.52	0.55	9.15			細砂	暗灰	中位	中位	中位	細砂										
71.22	0.30	10.45			砂礫	暗灰	中位	中位	中位	砂礫										

標準貫入試験 N 値

現場透水試験
k=8.38×10⁻³ cm/sec

3-1 比重含水 土粒